

ガードナーが8つの **Intelligences** を確認したのは心理学、認知・教育学、神経学の3方面からの取り組みの結果である。

研究者として、彼の初期の目標は発達心理学と認知心理学の視点から、子供がどのように芸術理解力を養成するかを探ることであった。**Project Zero** に参画し、芸術的思考様式、芸術観念の発達、芸術に関する教育についての研究・調査に取り組んでいたが、その間、偶然にも脳卒中を発症した患者に出会い、その症状に関心を持った。それがきっかけとなり、脳の部分的な損傷が人間の認知能力にどのような影響を与えるかについて、神経学の側面から研究し始めた。これにより、3つの学術的な側面から研究する体制が確立された。

MI 理論は、教育界にセンセーションを巻き起こしたが **MI** 理論は心理学上の純粋な研究結果であり、ガードナーはこのように教育界から大きな反響を得ることなど予想していなかった。しかし、8つの **intelligences** を彼が示したことにより、**Linguistic intelligence** と **Logical-mathematical intelligence** だけを偏重してきた教育界は新しい局面を迎えた。**MI** 理論の支持者が増えるに従って、**MI** 理論の実践方法の提供も要請されたが、ガードナーは心理学者としての自分の立場を固持している。その代わりに、教育者が **MI** 理論を正しく理解すれば、自由に応用・実践することを容認している。そこで、この理論から新しい教育観を授けられた教育者は **MI** 理論に基づいた教育機関の設立、教授法の開発を行ない、教育の向上を図った。また、企業の商品開発、人材育成でも **MI** 理論が注目を集めている。

MI 理論の発表から20数年たった今も、ガードナーが **Project Zero (PZ)** と共同開催する **Summer Institute**(ワークショップ)には毎年多数の参加者が集まり、**MI** 理論を中心に学び研鑽に勤めている。毎年 **PZ** 参加者は世界20カ国以上300余名に及んでいる。

ガードナー(1999)は **MI** 理論がその時代に応じて成長し発展していくことを願っていると述べた。さらに続けて、“**I must stress that no intelligence is in itself moral or immoral. Intelligences are strictly amoral, and any intelligence can be put to a constructive or a destructive use**” (p.45).と強調した。実際、彼は **intelligences** の建設的な使い方を長年にわたる “**the development and education of the mind**”に関する数多くの著書で示唆し、自らの **GoodWork Project** を通しても紹介している。

- References -

Gardner, H. (1999). *Intelligences Reframed*. New York: Basic Books.

Gardner, H. (1996). *Leading Minds*. New York: Basic Books.

Gardner, H. (1993). *Creating Minds*. New York: Basic Books.